



理不尽な時代に向き合う 「原爆の図」という作品

——「原爆の図丸木美術館」学芸員の岡村 幸宣さん

「過去の痛みや苦しみの歴史を知ることは、複雑な世界を理解するための手がかりになる」と話すのは、パルシステムとピースボート共催の「平和・核廃絶に向けたフォーラム」に登壇した「原爆の図丸木美術館」（埼玉県）の学芸員・岡村幸宣さん。岡村さんの話から、いまの時代に生きる私たちが「原爆の図」に向き合うことの意味を考えます。



岡村 幸宣（おかむら・ゆきのり）さん
「原爆の図丸木美術館」の学芸員。丸木位里、丸木俊を中心に社会と芸術表現のかかわりについての研究、展覧会企画などを行う。著書に『《原爆の図》のある美術館 丸木位里、丸木俊の世界を伝える』（岩波ブックレット）ほか。
（写真提供／丸木美術館、下の写真含む）

その時代に起きた社会の問題を 「自分ごと」としてとらえる

「原爆の図」は、丸木位里・俊という画家夫婦が原爆投下から数日後に広島に入った実体験から、その衝撃と恐ろしさを伝え残さなければいけないという思いで1950年から描き始めた連作です。その題材には第五福竜丸の被ばく、市民による原水爆禁止を求める署名運動などもあります。丸木夫妻は原爆とそれ以外の出来事、たとえば水俣の公害、南京虐殺などを線引きすることなく、常にその時代に起きていた社会の問題を「自分ごと」としてとらえようとしてきました。その問題意識はいまでも変わらずリアリティをもっているからこそ、「3・11」やウクライナ侵攻など、社会で理不尽なことが起きるたびに「原爆の図」が注目されてきたのだと思います。

「大衆が描かせた絵画」とも言われますが、この作品を描くために丸木夫妻はたくさんの人から話を聞きました。筆を動かしたのはふたりの画家であっても、「原爆の図」に注ぎ込まれた記憶は無数の人たちのもので

す。作者が亡くなったいまでも、「この絵が世の中に必要だ」と考える市民によって「原爆の図」は守られ、支えられています。

「原爆の図」は国内外で展示されてきました。なかでも、アメリカ・ワシントンD.C.での展示を見に来た94歳の男性のことが強く印象に残っています。彼は原爆を搭載した爆撃機が飛び立ったテニアンにいた元軍人でしたが、「原爆の図」の前で座り込んでしまいました。その翌日も来て、黙って絵を見つめていた姿が忘れられません。

過去の歴史というだけではなく、 「いのち」を考える扉に

丸木美術館には学校活動として多くの中高生も訪れますが、最初は絵に興味がない子どももいます。そうした子どもたちを前に話すとき、どうしたら「原爆の図」を過去の歴史というだけではなく、「自分の絵」として感じてもらえるかを考えています。誰かと仲よくなれなかったり、自分が傷つけられることもある現実のなかで、そ

れでもなお他者といっしょに生きていくにはどうしたらいいか——。「原爆の図」を通して「いのち」を考えるというのは、そういうことではないか。そう伝えと、子どもの絵を見る姿勢が変わるのを感じることがあります。

原爆投下から時間がたち「記憶の風化」を危惧する声もあります。私たちの多くが戦争や原爆の記憶や体験をもちません。しかし、そこから生まれた作品と出会い、それを扉に思考を立ち上げるという体験はできます。いまでも原爆をテーマにしたアニメや絵画、文学などの作品が新しく作られていて、「あの出来事は何だったのか」と考える作業は風化していません。そして、その出発点とも言えるのが「原爆の図」なのだと思います。

丸木位里・俊夫妻と「原爆の図」

水墨画家・丸木位里と油彩画家・丸木俊が共同制作した「原爆の図」。犠牲者がほぼ等身大で描かれ、見る人を圧倒します。1950年の発表以来、第15部までの連作です。



原爆の図丸木美術館と新館建設について

丸木位里・俊夫妻が1967年、埼玉県東松山市に開設。老朽化が進み、2025年夏の新館オープンをめざして建て替えの寄付を募集中です。詳しくは同館のホームページをご覧ください。



今年3月5日に開催した
「平和・核廃絶に向けた
フォーラム」の内容は
動画やWEBマガジンで
ご覧いただけます。



当日の動画は WEBマガジンは
こちらから こちらから



縦1.8メートル、横7.2メートルの「原爆の図」（写真は第1部「幽霊」の一部）



美術館を訪れた子どもたちに話をする岡村さん（写真奥）

放射能検査状況について

2022年度の検査数（カッコ内は検出件数）／2022年6月2日現在
※最新の検査状況は裏面の二次元コードよりご覧いただけます。

総計：340(4) 不検出率：98.8%

2021年度の検査数 総数2264(26) 不検出率98.9%

青果	55(0)	2021年度、れんこん(3.1Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。
しいたけ	6(4)	生しいたけ(3.8～9.4Bq/kg)、2021年度は生しいたけ(4.3～20Bq/kg)、岩手県産乾しいたけ・小粒どんこ(21Bq/kg)、冷凍食品の産直原木しいたけ(3.1Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。
他のきのこ類	10(0)	2021年度に続き、6月2日現在で放射能の検出はありません。
米・米飯類	0(0)	2021年産の玄米は28産地29検体を検査し、不検出でした。

牛乳、肉、卵	12(0)	産地ごとに定期的に検査しています。2021年度に続き、6月2日現在で放射能の検出はありません。
魚介類	14(0)	2021年度に続き、6月2日現在で放射能の検出はありません。
飲料水・飲料	6(0)	2021年度に続き、6月2日現在で放射能の検出はありません。
乳幼児用食品	44(0)	2021年度に続き、6月2日現在で放射能の検出はありません。
その他加工食品	193(0)	2021年度、うぐいすきな粉(5.2Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。

※乳幼児用食品のみ検出下限値1Bq/kg、その他は検出下限値3Bq/kg。

『放射能レポート』定期配付は終了します

パルシステムは2011年3月の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故直後から放射能対策を進めてきました。2011年9月に食品中の放射能の自主基準を設定し、お届けする食品の放射能検査を国より厳しい基準で行っています。また、放射能が検出された場合は産地と協力して低減に取り組んでいます。『放射能レポート』の定期配付は今回をもって終了させていただきますが、今後も引き続き放射能対策に取り組み、検査結果は組合員に毎週お知らせしていきます。

今後もパルシステムの公式サイトなどで
毎週行っている検査の結果や
放射能検査の内容をお知らせします

公式サイトで毎週お知らせ

検査結果については、引き続きパルシステム公式サイト
「お知らせ」のページに掲載します。

①公式サイトを開く



②トップ画面を
下にスクロールする

③「放射能検査の
お知らせ」をクリックする

注文アプリからもご覧になれます

- ① トップ画面の「メニュー」をタップする
- ② 「メニュー」画面の下側に移動して「関連情報・サービス」をタップする
- ③ 「関連情報・サービス」画面の「放射能検査結果」をタップする

検索して見る場合

放射能 お知らせ パルシステム



①ここをタップ

パルシステムの放射能検査はこちら

②「放射能検査」の ページに移ります



自主基準の内容や検査方法
などをご説明しています

「お知らせ」の
ページは
こちらから



「放射能検査」の
ページは
こちらから



インターネットから見られない方は、 こちらからお問い合わせをお願いします

パルシステム東京・パルシステム神奈川・パルシステム千葉・パルシステム埼玉・
パルシステム茨城 栃木・パルシステム福島・パルシステム静岡・パルシステム新潟とぎめき

パルシステム問合せセンター

0120-868-014 月～金曜日：9時～20時
土曜日：9時～17時

※通話料は無料です。 ※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。

パルシステム山梨

甲斐センター ■0120-28-5891

西桂センター ■0120-32-1061

一宮センター ■0120-21-9898

パルシステム群馬

高崎センター ■0120-60-5118

渋川センター ■0120-36-3315

東毛センター ■0120-63-3735

※センターによって、
携帯電話からはご
利用できない場合
があります。

放射能検査やパルシステムの取り組みに ついてのチラシを年に数回お届けします

放射能検査の詳細や放射能に関する情報、
パルシステムの取り組みなどをお伝えします。



※写真はイメージ